



処理され、ウイルスが生きていない不活化ワクチンを接種するためポリオウイルスによる中枢神経への感染はありません。

不活化ポリオワクチン

8月号

ポリオワクチン接種方法

現在、生ワクチンとして集団接種をおこなっているポリオワクチンが、来月9月から不活化ワクチンになります。生ワクチンでの副作用を心配して、不活化ワクチンを待たれていたお母さんも見えると思います。接種の回数や、間隔も変わってきますので、今月はポリオ不活化ワクチンについて、お知らせしていきたいと思います。

ポリオとは・・・

ポリオ(急性灰白髄炎)は、ポリオウイルスによって発症するウイルス感染症のことです。ポリオウイルスが原因で、脊髄の灰白質という場所が炎症をおこし、はじめの数日間には胃腸炎のような症状があらわれますが、その後1パーセント以下の確率で、ウイルスに関連した左右非対称性の弛緩性麻痺(下肢に多い)を呈する病気です。

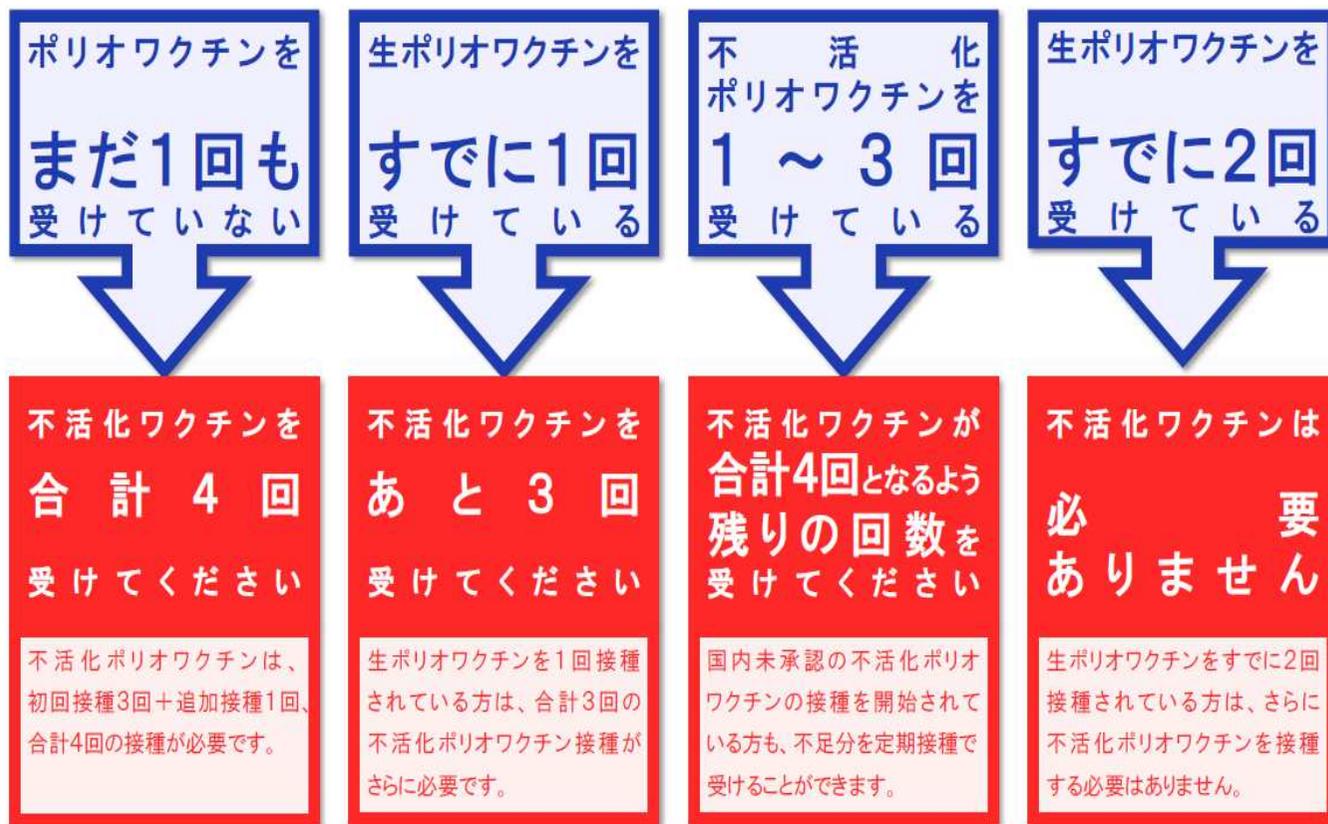
1961年から予防接種が実施されている日本では、1980年に野生株によるポリオ感染が根絶され、その後は定期接種で行われる経口生ポリオワクチンからしか発症していません。しかし、海外では流行している地域がまだあります。

ポリオの生ワクチンと不活化ワクチンの違いは？

生ワクチンでは弱毒化した生きたポリオウイルスそのものを接種し感染させるため、ワクチンによる麻痺性ポリオ発症が一定の確率で避けられませんでした。しかし不活化ワクチンでは、ホルマリン

どうすればいいの？ポリオワクチン

単独の不活化ポリオワクチン導入(平成24年9月1日予定)から、4種混合ワクチン導入までの接種方法



★9月からは集団接種から個人接種へ変わりますので、かかりつけのクリニックへ相談してください。